民主香川
定価　月100円
発行所
民主香川社
高松市藤塚町
3丁目13－14
☎(087)834-7311

共産党の躍進で古い政治の一掃を
四国の比例議席を勝ち取ろう
田村智子委員長

「自民党政治を『もとから変える』日本共産党の躍進を」―早ければ10月にも解散・総選挙が想定されるなか、日本共産党は3連休最終日の16日、田村智子委員長が高松市での演説会で、比例・小選挙区予定候補とともに総選挙での躍進を熱く訴えました。「この党を大きくしたい」と入党がありました。

田村委員長を迎え高松市内で開かれた日本共産党演説会。田村氏は、自民党の裏金・金権腐敗問題から、くらしと経済、外交・安全保障、ジェンダー平等、未来社会まで、自民党政治の何を変えどういう日本を目指すのか、「政治の中身を大きく変える」展望を聴衆に語り、「総選挙で日本共産党の議席を増やし自民党の議席を減らす」ため支持の輪を広げてほしいと訴えました。

衆院比例四国ブロックの白川よう子予定候補、たなべ健一（衆院香川1区）、石田まゆ（同2区）、ささい孝志（同3区）3予定候補があいさつしました。

演説会後、同会場で「入党懇談会」が開かれ、2人が入党を決意しました。

田村氏は自民党派閥の裏金問題を世に暴いた「しんぶん赤旗」日曜版の報道が今年のJCJ（日本ジャーナリスト会議）大賞に選出されたことを紹介。「スケールの点では、1975年の田中金脈報道や、88年のリクルート事件報道を超えるもの」との受賞理由を語り、自民党あげての「大政治犯罪」であることを明らかにしたからだと指摘しました。

自民党の総裁選で、すべての候補が裏金事件の再調査を行わないと表明しているとして「自民党まるごとの大政治犯罪だから誰ひとり再調査とはいえない。表紙を替えても、裏金議員の温存になる。古い政治の継続にしかならない」と厳しく批判しました。

「これを観客として見ているわけにはいかない。真相究明、裏金議員の選挙での公認を許さないと国民の怒りで追い詰めていこう」「四国の比例6議席のうち1議席を勝ち取り、全国で議席を伸ばし古い政治一掃をやり遂げよう」と呼び掛けました。

田村氏はまた、自民総裁選で 【2面につづく】

太鼓台

「暑い暑い」9月に入っても35度超えが続いています。こんなこと人生初めてです。30度超えるだけで「猛暑」と大騒ぎしていた過去は何だったのか。地球の異常気象の影響か、いつになったら「秋」が来るのでしょうか。

暑さは気候だけにとどまりません。政治の世界も「熱い」たたかいが行われそうです。

「赤旗なければ、裏金・裏のまま」と自民党の裏金問題を追及した赤旗日曜版が日本ジャーナリスト会議のJCJ大賞を受賞しました。

その裏金問題に蓋をしたままマスコミ総動員して、自民党総裁選挙が行われ、新しい自民党総裁が選ばれ、新しい総理大臣を選び、その新しい首相が衆議院を解散して総選挙が行われる、党利党略のスケジュールがすすんでいます。

企業団体献金廃止とは揃って一言も言わず。憲法9条改悪は揃って口にする、そんな自民党政治そのものを解散総選挙になれば国民の回答を突きつけようではありませんか。

白川よう子さんを今度こそ、四国比例で、国会に送りたいものです。

県下で一斉宣伝
平和憲法を生かすかがわ県民の会

平和憲法を生かすかがわ県民の会は12日、香川県内8カ所で街頭宣伝を行いました。

中谷浩一日本共産党香川県委員長は、早ければ10月末にも衆議院総選挙が行われることにふれ、「岸田首相が政権を投げ出しても、パーティー券を使った裏金問題や統一協会との癒着は解決しない。物価高に苦しむ国民へは有効な手立てを取らず、一方で中国との戦争を見越して大軍拡をやる、この危険で行きづまった自公政治そのものが問題だ。政治を大本から変えるしかない」と強調しました。

とくに戦争の問題で岸田政権がアメリカいいなりで、集団的自衛権の行使や軍事同盟の強化などの大軍拡を進めていると批判。「他国の領土を攻撃する兵器を配備し攻撃すれば、日本が戦場になる。いま日本共産党の志位和夫議長は戦争をなくすため、ヨーロッパの各国の訪問をしています。日本共産党は市民や野党のみなさんと力を合わせて、外交で40年間東南アジアでの戦争をなくしたASEANに学び『戦争ではなく外交を』の世論をつくる先頭に立っていきます」と訴えました。

そのほかに、茂木邦夫立憲民主高松市議、十河浩二香川憲法会議事務局長、成合美範社民党香川県連合副幹事長、植田真紀みどり香川県議、小野賢治香川県平和労組事務局長、大熊正樹平和憲法を生かす県民の会事務局長がリレートークをしました。

郷土史辞典「笠居郷探訪」（一部抜粋）⑳
半夏生（ハンゲショウ・半夏（ハンゲ））
著者　立山　信浩

（1）ドクダミ科の多年草

夏、茎頂にある葉の下半部が白色に変じ目立つ。葉の半分だけが白変することから半化粧（ハンゲショウ）と呼んだともいう。また、ちょうど暦の半夏生（雑節の1つ。太陽暦7月2日頃）の時期に葉が白変することから半夏生（ハンゲショウ）と呼ばれたともいう。片白草（かたしろぐさ）ともいう。

また「半夏半作」といって、この日までに田植えが終わらないと収穫が少ないといわれ、遅れている家に手伝いに入り共同で田植えを行なった。それでも、空梅雨の年などには、水ブニ（水利）の悪い土地の田植えは半夏の後になることもあった。

田植え作業を終えて迎えるハンゲは、農家にとってはホッとする日であり、「ハンゲ休み」をした。くたくたに疲れて迎えるサノボリと違って、ハンゲはちょっとした祝い膳を用意するゆとりもあり、笠居郷のどの地区でも、新しい小麦粉で打ったうどんを食べたり、「半夏ダコ」といって、茹でたタコをきゅうりもみに入れたり三杯酢で食べたりした。

※　5～6月に阿波から来ていた代掻き用のカリコ（借耕）牛は、半夏前までに代掻きを終えて阿波に帰っていった。

※　ハンゲには、芝山の海辺に牛を連れて行き、からだを洗ってやって田植え作業の労をねぎらう農家もあった。

※　ハンゲにはうどんを打って食べる風習があったことから昭和55年（1981）香川県製麺組合は7月2日をうどんの日とした。

（2）雑節の1つ。夏至から11日目に当たる日。太陽暦では7月2日頃。

梅雨が明け、田植えが終わる頃。この日はよく照ることが多く、「半夏のはげあがり」といった。雨が降っても昼過ぎからは晴れてくるという意味。あるいは長く続いた梅雨も半夏を迎えると明ける、という意味でもある。

その一方、「ハンゲ（半夏）のつゆなか（梅雨中）」という言い回しもある。たしかにハンゲは晴れることが多いが、まだ梅雨は残っているという意味である。

『ハンゲは、百姓が疲れを一時忘れる日。一手間かかるうどんやだんごを作って、みんなで食うた。ハンゲのうどんは特別で、揚げがのる。だんごではハンゲのハゲだんご言うて、ようけ作った』

『ハンゲまでに田植えが終わらんかったということは、私の家ではなかったけど、終戦の年の昭和20年だけは遅れたよ。男手は戦争に取られとるし、女も勤労奉仕があるし、そこらじゅうの田んぼがハンゲまでに終わらんかった、あの年は、夜中に田植えした家もあったというよ。昭和20年の高松空襲は、ハンゲ明けの7月4日の朝だっただろう。田植えがやっと終わったりまだ終わらんかったりしていた高松の農家の人はどんな気持ちで荒らされた田んぼを見たことか百姓なら分るよ。』